

LETTER FROM COPENHAGEN  
コペンハーゲン通信 PART VIII  
2



デンマーク第三の都市オーデンセ市にある官民連携の非営利組織  
—Healthcare DENMARKの体験スペース(筆者撮影)



デンマーク王国 DATA

人口582万人、面積4.3万平方キロ(≒九州)、欧州最古の王室を有する立憲君主国。自治領にグリーンランドとフェロー諸島。「世界一幸福度の高い国」「環境・デザイン・福祉先進国」として知られ、気候変動対策やデジタル化に注力。アンデルセン童話、食器・家具・知育玩具などのブランドは日本でも有名。

2007年1月より本会事務局職員が在デンマーク日本大使館に出向しています。国際競争力や人々の幸福度で高い評価を受けるデンマークからの現地報告を不定期にお届けします。



瀬間 雄介

在デンマーク日本国大使館二等書記官  
(経済同友会事務局より出向中)

## デンマークのヘルスケア —デジタル化とスーパーホスピタル

ある日曜日の朝のこと。娘が熱を出したため、公立病院の夜間・休日ダイヤルに電話しました。電話口で容態を説明していると、「ショートメールを送るので、記載されたURLにアクセスしてカメラを起動してください」とのこと。届いていたショートメールのURLをタップすると、確かにカメラが起動したので、言われるままにスピーカーフォンに切り替え、カメラで娘の様子を撮影します。しばらくして、電話口から、気管支炎との診断とともに、薬剤を処方するので薬局で買い求めるようにと説明が。期せずして経験した初の遠隔診療に驚きつつ、薬局に向かったのです。

デンマークでは税方式の公的医療制度が確立されており、個人の医療費は基本的に無料です。プライマリーケアはGeneral Practitioner (GP)、いわゆるかかりつけ医が担い、専門医や大きな病院へのアクセスには原則としてGPによる紹介が必要です。GPが稼働しない週末や祝日は、公立病院が緊急医療サービスを提供します。歯科治療も18歳までは無料です。

デンマークは長年にわたって社会のデジタル化に取り組んできた国です。1968年に導入されたCPRナンバーという個人識別番号の活用により、個人の診療記録などの医療情

報はデジタル化され、医療提供者や薬局が共有するための基盤が整備されています。処方箋もデータとして共有されるので、医師が処方した薬剤を全国どこの薬局でも直ちに購入できます。市民は、医療ポータルサイトや専用アプリで、自分の過去の受診歴や処方薬、ワクチン接種歴、新型コロナウイルスの検査結果を閲覧できます。日本の健康保険証に相当する健康カードも昨年6月にスマートフォンのアプリとして登場。こうした取り組みが、医療サービスの品質と、市民の医療情報へのアクセシビリティの向上につながっています。

先日訪れた官民連携組織 Healthcare DENMARK (上写真)では、デンマークの先進的なヘルスケアの取り組みを体験しながら学べます。中でも目を引いたのは、2007年に全国的な自治体改革とともに立ち上がったスーパーホスピタル構想です。

構想の目的は、病院運営を効率化し、限りある医療リソースを最適配分することです。2025年までに全国40カ所の病院を16のスーパーホスピタルに統合し、機能を拡張します。スーパーホスピタルには、運搬・調合・衛生管理用のドローンやロボティクス、水やエネルギー消費を抑制する資源循環型のエコシステムを導入します。建築デザインも治療効果を企図した設計が行われるそうです。少し未来の病院が提供する、デンマークのヘルスケアに注目です。